

第31回 琉球新報児童文学賞受賞作品

短編児童小説部門

蛍火

やんばるの森に、いつぶきのキノコが...

おなかのそこをグツと力をつため、口を大きく開けると...

やがて、森のほとりに小さな家があった。あれ野が畑に変わり...

「あいつら、おれをばはるとして、キノコを...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...



「二つ」の「キジムナー」

児童文学という形になりまし、子供に読んでも...

色い毛玉に手足が生えた「たごきおばけ」...

雷が落ちたようなすさまじい音が、大地を震らせた...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...

受賞者の言葉

最後のキジムナーは、水木先生の挿ぐキジムナーが...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...

「あかんぼの娘が、音もなく降る夕暮りに、あかんぼが生れた...